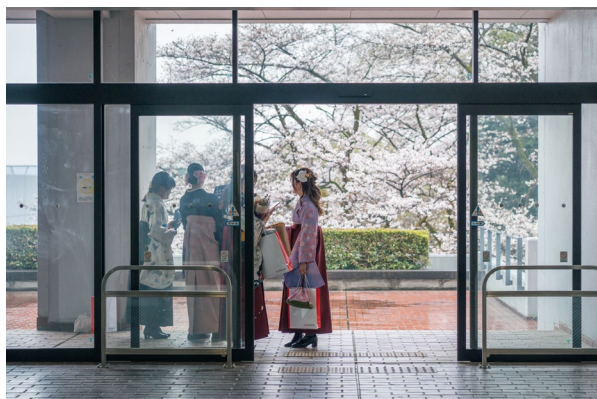


白門経友会

卒業式・入学式が執り行われました。

今年の卒業式は雨となりました。しかし、そうした中でも学生たちは晴れやかな表情で、新しい生活に向けて期待に胸を膨らませながら、同級生と語り合ったり、記念写真を撮ったりしながら、多摩キャンパスでの最後の一日を満喫しているようでした。



ウクライナ、ガザでの戦争に加えてさらにイランで戦争が勃発し、国際情勢の急変で日本社会がこれからどうなっていくのか、ますます先を見通せない時代になってきましたが、それだけに一層、卒業生たちには、中大経済学部で身につけた能力を最大限に発揮して、大いに活躍してくれることを祈念しています。

そして二月の入試以降閑散としていた大学のキャンパスは、卒業式を終えて四月を迎える一日にして一気に人が溢れかえるようになります。今年度の入学式は四月二日(木)に多摩キャンパス第一体育館にて、全学部、専門職大学院を除く全大学院の新生を対象に開催されました。雨がちらつく中、希望に満ちた新生たち、父母たちがキャンパスに集まり、新入生を勧誘するサークルの学生などで、ペデ下はごった返していました。

生協でさまざまな中大グッズを購入しようとしてジに列をなしている様子も微笑ましいものです(グッズに関心のある方は、「中央大学マーク入りグッズ」で検索してみてください)。



生協の中大グッズコーナーには新商品も登場しています。

二〇二五年度末に退職される先生方

前号でもお伝えしましたが、二〇二五年度をもって定年退職される先生方は以下の通りです。

※あいうえお順。凡例…①担当科目

②中央大学での経歴 ③研究分野

伊藤 秀一 教授

①ドイツ語 ②二〇〇〇年 教授

③ヨーロッパ文学、ドイツ文学

加藤木 能文 准教授

①英語 ②一九九三年 助教授

二〇〇七年 准教授 ③言語

ゲイリー・W・キャンター教授

①英語 ②一九九六年 助教授

二〇〇三年 教授 ③日本文学、アメリカ文学、英語教育法

鳥居 伸好 教授

①マルクス経済学、独占資本論 ②一九九八年 教授 ③理論経済学、現代資本主義分析

以上先生方に加えて、任期制助教が新しい勤務校が決まり二月に退職されました。

多田由彦(任期制)助教
①特別講義 ②二〇二二年 戦略経営研究科助教、二〇二三年 経済学部助教C ③ゲーム理論

日時 六月一三日(土)一四時より
場所 中央大学多摩キャンパス 七号館(経済学部棟)
七一〇四教室

総会案内

記念講演会講師 篠原正博教授



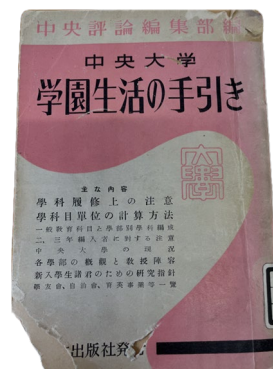
履修要項から

中大の歴史を紐解く(二)

濱岡 剛

図書館には、『学園生活』に似たタイトルの『学園生活の手引き』(昭和二十七年)というものも一緒に収められています(縦書き)。奥付には、発行者として「中大出版社」、編集者として「中央大学中央評論編集部」が記載されています。これが、大学が新入生向けに作成したものとよく分かりませんし、『学園生活』との関係のよく分かりません。内容は、新制中央大学とはいかなるものかを説明したもので、なかなか読み応えのあるものなので、少し紹介しておきたいと思います。はしがきは、次のような新入生への呼びかけで始まります(旧字はすべて新字に置き換えました)。「新制大学とはどんなものであるか、新制中央大学の内容はどうか、本学に入学したときどういふ態度と方針で学園生活を送つたらよいか、またどのように各学部の学科目を選択履修したらよいか、すべてこれらは新しく入学された諸君及び諸君の父兄の知りたいところであり、知っておかなければならぬところ

である。この『手引』は実にこれらのことについて諸君に知らせ、教え、常時諸君にとって有益な友となるよう編集されているつもりである。」



『学園生活の手引き』(一九五二年)

中央大学は昭和二十四年に新制大学として発足しました。それから数年経つたところで、新制大学がどのようなもので、どのようなことを目指しているのか、新入生たちにそれがどのような意識をもっているかを熱く語ろうとしていることがよく感じられます。

本文も、実用書の類いとはまったく異なり、重厚な文体で読み応えの

ある文章に仕上がっており、新制度の理念にも触れながら、念入りに説明してくれています。以下、単位制についての説明の一部を引用しておきます。「学生諸君はどんな学科目を選んで、在学四力年を、学修上効

果あるものにするべきか、このことについて指針を与えなくてはならないが、その前に新制大学の学科目の単位計算について一通り知っておく必要がある。：(中略)：新制大学はこのような前提の上に立つているのであるから、学生諸君も平常よく勉学に心掛けることが必要であるとともに、教授も学生を放置せずに学生をしてかかる勉学の方向に向かうようにしむける義務があるのである。従つて、従来のように教壇上から所謂講義をし、学生に学問を上から注入し、学年末に試験をして『我が事終へり』とするような教授の態度も

ある文章に仕上がっており、新制度の理念にも触れながら、念入りに説明してくれています。以下、単位制についての説明の一部を引用しておきます。「学生諸君はどんな学科目を選んで、在学四力年を、学修上効果あるものにするべきか、このことについて指針を与えなくてはならないが、その前に新制大学の学科目の単位計算について一通り知っておく必要がある。：(中略)：新制大学はこのような前提の上に立つているのであるから、学生諸君も平常よく勉学に心掛けることが必要であるとともに、教授も学生を放置せずに学生をしてかかる勉学の方向に向かうようにしむける義務があるのである。従つて、従来のように教壇上から所謂講義をし、学生に学問を上から注入し、学年末に試験をして『我が事終へり』とするような教授の態度も

経済学部創立百周年記念奨学金へ募金のお願い(目標金額 6,000万円)

学生のキャリア形成を金銭面から後押しする「経済学部創立百周年記念奨学金」の原資が、三年後にも尽きようとしています。経済学部創立百周年に寄せられた篤志から創設され、以来十年間で約二百名の学生を後押しし、各々が大きな成果を挙げてきた本奨学金を、これからの学生たちにも同様の制度として継続したく、現奨学金への追加という形で皆様の支援を賜りたくお願い申し上げます。



募金方法や税制上の優遇措置など、詳しくはWEBサイトをご覧ください。中央大学ホームページの経済学部トップから赤色のバナーをクリック。スマホはQRコード読み込みでお進みください。

編集後記

前号の百周年記念奨学金受給生の活動報告に対して、会費納入の際に寄付を上乗せして下さった方があり、それらをまとめて学部へ寄付させて頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。(幹事長 濱岡 剛)

亦新制大学の精神を知らないこと甚しいものといわなければならぬ。」(九〜一頁)

このように今の学生・教員も心得ておくべきであろう「新制大学の精神」が説きすすめられています。この冊子がその後も続けて刊行され利用されていたのは、残念ながら図書館にあるものだけでは確認できません。ご存じの方がおられましたらお教えいただけるとありがたいです。

2026年4月30日 第92号
発行 白門経友会常任幹事会
編集 白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部内
URL : www.wg-keiyukai.com
Fax : 042-673-3425

※「履修要項から中大の歴史を紐解く(一)」は会報99号に掲載しています。